

- 16.かれらの体が臥床を離れると、畏れと希望とを抱いて主に祈り、われが授けたものを施しにさし出す。
- 17.かれらはその行ったことの報奨として、喜ばしいものが自分のためにひそかに（用意）されているのを知らない。
- 18.信仰している者が、主の掟に背く者と同じであろうか。かれらは決して同じではない。
- 19.信仰して善行に勤しむ者は、樂園が住まいで、それは善行をしたことへの報奨である。
- 20.だが掟に背く者の住まいは地獄の業火である。そこから出ようとする度にかれらはその中に引き戻され、「あなたがたが虚偽であるとしていた業火の懲罰を味わえ。」と言われよう。
- 21.われは大きい懲罰の前に、必ず手近な懲罰をかれらに味わせる。そうすればかれらも（悔悟してわれに）帰るであろう。
- 22.主の印に気付いていながらその後背き去る者より酷い罪作りであろうか。われは必ず罪深い者に報復するであろう。
- 23.われは、ムーサーにしかと啓典を授けた。だからあなた（ムハンマド）がこれを授かることを疑ってはならない。われはそれを、イスラエルの子孫たちの導きとした。
- 24.われは、かれらの間から、わが命令を下して（人びとを）導く導師をあげた。かれらはよく耐え忍びまたわれの印を堅く信じていた。
- 25.本当にあなたの主は、かれらが意見を異にしていたことに関して、審判の日にかれらの間を裁決なされる。
- 26.かれらに教えなかったか。それ以前にわれが幾世代を滅ぼしたかを。その住まいの中を、（今）かれらは往来している。本当にその中には、種々の印がある。それでもかれらは聞く耳を持たないのか。
- 27.またわれが水を不毛の地に送り、それで作物を育成させ、かれら自身や家畜に食べさせるのを見ないのか。かれらは見る目を持たないのか。
- 28.かれらは、「もしあなたがたが言うことが真実ならば勝利はいつ来るのですか。」と言う。
- 29.言ってやるがいい。「勝利の日には、不信心であった者の信仰はかれらに役立たず、かれらは猶予もされないであろう。」
- 30.だからあなたは、かれらを避けて待て。かれらも待っているのである。

## SURA 33.部族連合章〔アル・アハザーブ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.預言者よ、アッラーを畏れ、不信者や偽信者に従ってはならない。本当にアッラーは全知にして英明であられる。

- 2.主からあなたに啓示されたところに従え。本当にアッラーは、あなたの行うことを知り尽くされる。
- 3.アッラーに凡てを托しなさい。本当にアッラーは、管理者として万全であられる。
- 4.アッラーはどんな男の体の中にも2つの心臓を創られない。あなたがたが、「わが母の背中のようだ。」と言って（離縁宣言する）妻をあなたがたの産・の親と同一に御創りにはならない。またかれはあなたがたの養子を、あなたがたの実子ともなされない。これらは、あなたがたが口先だけで言ったことである。だがアッラーは真実を語り、且つ（正しい）道に導かれる。
- 5.かれら（養子）の父（の姓）をもつてかれらと呼べ。それがアッラーの御目に最も正しいのである。もしかれらの父（の姓）を知らないなら、信仰におけるあなたがたの兄弟、友ということにするがよい。あなたがたがそれに就いて誤ることがあっても、罪ではない。だがあなたがたの心に悪い意図のある場合は別である。アッラーは寛容にして慈悲深き御方であられる。
- 6.預言者は、信者にとりかれら自身よりも近く、またかれ（聖預言者）の妻たちはかれら（信者たち）の母である。またアッラーの定めでは実の血縁関係者は粟いに、信仰上の兄弟（アンサール）や（マッカよりの）移住者よりも親近である。だがあなたがたの味方のためには、親切にしてやれ。これは啓典に記されていることである。
- 7.またわれが、預言者たちから誓約をとった時を思い起こしなさい。あなたからも、またヌーフ、イブラーヒーム、ムーサー、マルヤムの子イーサーからもとった時のことを。われは、厳かにかれらから誓約をとったのである。
- 8.（これは主が）忠誠な者に、かれらの忠誠さを問われるためである。かれは不信心者たちのために、痛ましい懲罰を備えられる。
- 9.信仰する者よ、あなたがたに与えられたアッラーの恩恵を念え。大軍があなたがたに攻め寄せて来た時、われはかれらに対し大風と、目に見えぬ軍勢を遣わした。アッラーは、あなたがたの行うことを（明確に）御存知であられる。
- 10.見るがいい。かれらは、あなたがたの上からまた下から襲って来た。その時目は霞・、心臓は喉もとまで届いて、あなたがたはアッラーに就いて、色々と（悪い）想像をした。
- 11.こうして信者たちは試・られ、かれらは猛烈な動揺に播さぶられた。
- 12.その時、偽信者や心に病の宿っている者たちは、「アッラーとその使徒は、只欺いてわたしたちに約束したのです。」と言った。
- 13.またかれらの一団は言った。「ヤスリブ（アル・マディーナ）の民よ。あなたがたにはとても頑張れるものではない。引き返しなさい。」またかれらのある者は、預言者に（帰還の）許しを願って、「本当にわたしたちの家は（無防備で危険に）晒されています。」と言った。かれらは、晒されているのではない、只逃亡を望んだだけである。

- 14.もしかれら（敵軍）が四方からそこに侵入して来て、反乱を呼びかけたなら、かれらは必ずこれを受け入れ、少しも（それに）遅れることはなかったであろう。
- 15.しかもかれらは先に、決して背き去らないと、アッラーに誓っていた。アッラーとの約束は、（必ず）尋問されるのである。
- 16.言ってやるがいい。「逃亡は、仮令死や戦死から免れても、あなたがたを益さない。あなたがたは隙の間を楽しむ丈である。」
- 17.言ってやるがいい。「アッラーが、あなたがたに災いを望まれ、また慈悲を施そうと望まれた時誰が、それを差し止められようか。アッラーをおいては、かれらの保護者も援助者もないのである。」
- 18.アッラーは、あなたがたの中（人びとを）引きとめた者、またその同胞に向かって、「わたしたちの方へ来い。」と言った者を知っておられる。またかれらは僅かの間外、戦場には臨まなかった。
- 19.かれらはあなたに対して、貪欲である。まあ見るがいい。かれらに危険が訪れると、臨終の人のように目玉をぐるっと廻して、あなたを熟視する。そして危険が去ると良いものばかり貪り、唇を尖らせてあなたがたを痛烈に非難する。これらの者は信者ではない。アッラーは、かれらの行いを無益になされる。それはアッラーには容易なことである。
- 20.かれらは、部族連合軍は敗退したのではないと考えている。もし部族連合軍が（再び）来ることがあれば、かれらはベドウィン族の間に身を置いて、あなたがたの消息を尋ねる（立場になる）ことを願っている。またもしかれらがあなたがたの中にいても、僅かの者の外は戦わないであろう。
- 21.本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった。
- 22.信者たちは、部族連合の軍勢を見た時言った。「これはアッラーとかれの使徒が、わたしたちに約束されたものである。アッラーとかれの使徒は、真実を話された。」それは、かれらの信心と服従、帰依の念を、嫌が上にも深めた。
- 23.信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し、また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。
- 24.（これは結局）アッラーが、忠誠な人々に対しその忠誠さに報われ、またかれが御望・ならば、偽信者を罰し、あるいはかれらを赦されるということである。本当にアッラーは、寛容にして慈悲深き御方であられる。
- 25.アッラーは不信心な者たちを、怒りのうちに（アル・マディーナから）何ら益するところなく撤退なされた。戦いには、アッラーは、信者たちの戦闘を（強風や天使によって）凡てにわたって、守って下さる。アッラーは強大にして偉力ならびなき方であられる。

- 26.またかれは、かれら（連合軍）を後援した啓典の民を、それらの砦から追い、その心中に恐怖を投じられた。あなたがたは或る者を殺し、また或る者を捕虜とした。
- 27.またかれは、かれら（啓典の民）の土地、住宅、財産またあなたがたの未踏の地を、あなたがたに継がせられた。アッラーは凡てのことに全能であられる。
- 28.預言者よ、あなたの妻たちに言ってやるがいい。「もしあなたがたが、現世の生活とその煌びやかさを望むなら来るがいい。わたしは贈り物を与えて、立派に別れよう。
- 29.だがあなたがたがもしアッラーとその預言者、そして来世の住まいを求めるならば、あなたがたの中で善行に動しむ者には、アッラーは偉大な報奨を準備して下さっている。」
- 30.預言者の妻たちよ、あなたがたの中で明白な醜行を犯した者は、それに対する懲罰は倍加されよう。アッラーにはそれは容易なことである。
- 31.だがあなたがたの中、アッラーとその使徒に服従、崇敬して善行に励む者には、われはそれに対する報奨を倍加し、寛大な用度を準備するであろう。
- 32.預言者の妻たちよ、あなたがたは（外の）女たちと同じではない。もしあながたがアッラーを畏れるならば、心に病ある者の意を動かさせないように、言葉が軽くてはならない。端正な言葉でものを言え。
- 33.あなたがたの家に静かにして、以前の無知時代のように、目立つ飾りをしてはならない。礼拝の務めを守り、定めぬ施しをなし、アッラーと使徒に従順であれ。家の者たちよ、アッラーはあなたがたから不浄を払い、あなたがたが清浄であることを望まれる。
- 34.またあなたがたの家で読誦される、アッラーの印と英知を銘記せよ。本当にアッラーは親切にして全知であられる。
- 35.本当にムスリムの男と女、信仰する男と女、献身的な男と女、正直な男と女、堅忍な男と女、謙虚な男と女、施しをする男と女、齋戒（断食）する男と女、貞節な男と女、アッラーを多く唱念する男と女、これらの者のために、アッラーは罪を赦し、偉大な報奨を準備なされる。
- 36.信仰する男も女も、アッラーとその使徒が、何かを決められた時、勝手に選択すべきではない。アッラーとその使徒に背く者は、明らかに迷って（横道に）逸れた者である。
- 37.アッラーの恩恵を授かり、またあなたが親切を尽くした者に、こう言った時を思え。「妻をあなたの許に留め、アッラーを畏れなさい。」だがあなたは、アッラーが暴露しようとした、自分の胸の中に隠していたこど（養子の妻との結婚が人の口の端に上がること）を恐れていた。寧ろあなたは、アッラーを畏れるのが本当であった。それでザイドが、かの女に就いて必要なことを済ませ（離別し）たので、われはあなたをかの子と結婚させた。（これからは）信者が、必要な離婚手続きを完了した時は、自分の養子の妻でも、（結婚にも）差し支えないことにした。アッラーの命令は完遂しなければならない。

- 38.預言者が、アッラーの御命令を行うのは妨げない。これはあなた以前の者に対するアッラーの慣行である。アッラーの命令は動かせない定めである。
- 39.アッラーの御告げを伝える者たちは、かれを畏れ、アッラー以外の何ものをも畏れない。アッラーは清算者として万全であられる。
- 40.ムハンマドは、あなたがた男たちの誰の父親でもない。しかし、アッラーの使徒であり、また預言者たちの封緘である。本当にアッラーは全知であられる。
- 41.あなたがた信者よ、アッラーをつねに唱念〔ズィクル〕しなさい。
- 42.朝な夕な、かれの栄光を讃えなさい。
- 43.かれこそは、あなたがたを暗黒から光明に連れ出すために、天使たち共々あなたがたを祝福なされる方である。かれは真の信者に、慈悲深くあられる。
- 44.かれらがかれに会う日の挨拶は、「平安あれ。」である。かれらのために、寛大な報奨を準備なされる。
- 45.預言者よ、本当にわれはあなたを証人とし、吉報の伝達者そして警告者として遣わし、
- 46.かれの許しで（人びとを）アッラーに招く者、光明を行き渡らせる燈として（遣わした）のである。
- 47.それで信者たちにアッラーからの偉大な賜物があるとの吉報を伝えなさい。
- 48.無信仰の者や偽信者に、従ってはならない。かれらの煩わしさを意にとめず、只ひたすらアッラーに（全てを）托しなさい。アッラーは、（凡ての事の）管理者として万全であられる。
- 49.信仰する者たちよ、あなたがたは信者の婦人と結婚し、かの女に触れないうちに離婚する場合は、かの女らに就いて定め期限を計算しなくてもよい。かの女らに贈与をなし、面目を立ててきれいに離別しなさい。
- 50.預言者よ、われがあなたの妻として許した者は、あなたがマハルを与えた妻たち、また捕虜としてアッラーがあなたに授けた、あなたの右手の所有する者、あなたの父方のおじ、おばの娘たち、母方のおじ、おばの娘たちで、あなたと共に移住してきた者、また女の信者で心身を預言者に捧げたという者で、もし預言者がこれと結婚を欲するならば（許される）。これはあなただけの（特例）で、外の信者たちには許されない。われは、あなたが窮地に陥らないようかれら（信者）の妻、とその右手の所有する者に就いて、かれらにわれが決めたことは承知させている。アッラーは寛容にして慈悲深い方である。
- 51.あなたは妻たちの中の、欲する者を去らせ、欲する者を受け入れてもよい。またあなたが退けていた者を召しても罪はない。これはかの女らを喜ばせ、その心の憂いを解き、またあなたが各自に与えるもので満足させるため妥当である。アッラーはあなたがたが胸に抱くことを知っておられる。アッラーは全知にして大度であられる。

52.あなたはその後、女（を娶ること）もまた妻たちを取り替えることも許されない。仮令その美貌があなたの気をひいても。ただしあなたの右手が所有する者は別である。アッラーは凡てのことを監視なされる。

53.信仰する者よ、預言者の家に食事に呼ばれても食事の準備が、完了するまでは、家の中に勝手に入ってはならない。だが呼ばれた時は入りなさい。食事が終わったならば立ち去れ。世間話に長座してはならない。こんなことが預言者に迷惑であっても、預言者はあなたがたを（退散させることを）遠慮するであろう。だがアッラーは真実を（告げることを）遠慮なされない。またあなたがたが、かの女らに何ごとでも尋ねる時は、必ず帳の後からにいなさい。その方があなたがたの心、またかの女らの心にとって一番汚れがない。またあなたがたは、アッラーの使徒を、悩ますようなことがあってはならない。またあなたがたはどんな場合でも、かれの後でかれの妻たちを娶ってはならない。本当にそれらは、アッラーの御目には大罪である。

54.あなたがたが何か現わしてもまた隠しても、アッラーは凡てのことを深く知っておられる。

55.かの女たちが（ヴェールをとっても）罪ではないのは、かの女らの父または息子、それから兄弟、兄弟の息子または姉妹の息子、または同信の女たちとかの女たちの右手が所有する者たちである。（婦人たちよ。）アッラーを畏れなさい。アッラーは本当に凡てのことの立証者であられる。

56.本当にアッラーと天使たちは、聖預言者を祝福する。信仰する者たちよ、あなたがたはかれを祝福し、（最大の）敬意を払って挨拶しなさい。

57.本当にアッラーと使徒を悩ます者には、アッラーは現世でも来世でも、激怒なされ、かれらのために恥ずべき懲罰を準備なされる。

58.また理由もなく、男女の信者を不当に悩ます者は、必ずそしられて明白な罪を負う。

59.預言者よ、あなたの妻、娘たちまた信者の女たちにも、かの女らに長衣を纏うよう告げなさい。それで認められ易く、悩まされなくて済むであろう。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

60.もし、偽信者や心に病の宿る者、そして市中の扇動者たちが、（その悪事を）止めなければ、かれらに対しあなたを、駆り立ててやろう。そうすればこの後、かれらがあなたがたの隣人としていられるのも、僅かの間であろう。

61.かれらは必ず呪われ、見つかり次第捕えられ、殺されるであろう。

62.これは昔の過ぎ去った者たちに対する、アッラーの慣行である。アッラーの慣行には何の変更もない。

63.人びとは（審判の）時に就いてあなたに尋ねよう。言ってやるがいい。「本当に、その知識は、アッラーの御許にある。どうしてあなたに分るだろうか、その時は近いであろう。」

64.本当にアッラーは不信者に激怒され、かれらのために烈火を準備なされ、

- 65.かれらは永遠にその中に住・，守護者も救助者も見い出せないであろう。
- 66.その日，かれらの顔が火の中でひっくり返り，かれらは，「ああ，わたしたちはアッラーに従い，また使徒に従えばよかった。」と言うだろう。
- 67.またかれらは言うだろう。「主よ，わたしたちは，本当に頭や権力者たちに従っていました。かれらがわたしたちを，道に迷わせたのです。
- 68.主よ，かれらの懲罰を2倍にして，酷い激怒でかれらに御怒り下さい。」
- 69.信仰する者よ，ムーサーを悩ました者のようであってはならない。だがアッラーはかれらの言った中傷から，かれを清められた。アッラーの御許で，かれは栄誉を与えられていた。
- 70.信仰する者よ，アッラーを畏れなさい。（常に）実直な言葉でものを言いなさい。
- 71.かれはあなたがたのためにその行いを矯正され，諸々の罪を赦される。アッラーとその使徒に従う者は，確かに偉大な幸福を成就する者である。
- 72.本当にわれは，諸天と大地と山々に信託を申しつけた。だがそれらはそれを，担うことを辞退し，且つそれに就いて恐れた。人間はそれを担った。本当に（人間は）不義でありかつ無知である。
- 73.（それで）アッラーは，偽信者の男たちと女たち，また多神教徒の男たちと女たちを，処罰なされる。だがアッラーは，信仰する男たちと女たちには，哀れ・をかけられる。アッラーは寛容にして慈悲深い御方であられる。

## SURA 34.サバア章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.天にあり地にあるす凡てのものを所有なされるアッラーに讃えあれ。来世においても，讃えはかれのものである。かれは英明にして凡てに通じておられる。
- 2.かれは大地に入るもの，またそれから出るものを凡て知っておられ，また天から下るもの，ならびにそこに上るもの凡てを知っておられる。かれは慈悲深く寛容であられる。
- 3.信仰のない者は，「（審判の）時は，わたしたちには来ないであろう。」と言う。言ってやるがいい。「いや，主に誓って，それは必ずあなたがたにやって来るのである。幽玄界までも知っておられる主に誓って。天においても地においても，微塵の重さでも，かれから免れられるものはない。またそれより小さいものも大きいものも，明確な書に記されないものはない。
- 4.それはかれが，信仰して善行をする者に，報われるためである。これらの者にこそ，寛容と寛大な御恵・があろう。
- 5.だがわれの印を虚しくするために努力する者，これらの者には痛ましい懲罰があろう。